

“但馬牛”今昔物語

兵庫県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」

館長 渡邊 大直

第 24 回「肉用牛としての但馬牛改良の足跡」(5)

現在の中土井系の祖とも言うべき「田尻」の父「第十四茅野」の母方祖父は熊波系の「第三塩山」、熊波系の「茂福」の母方祖父は中土井系の「田尻」というように、昔から系統間の交配が行われていました。そして 1950 年代末には、優秀個体計画生産として「よし蔓」に「田尻」を交配して奥土井系を作るなど、意図的に系統間交配して種雄牛造りが行われました。

また農家も近親交配は避けたいので、城崎系種雄牛の娘牛には熊波系種雄牛を交配し、そして生まれた娘牛には中土井系種雄牛を交配するといった具合に系統間交配を行いました。更に中土井系主体となった 1980 年代以後は、菊美系と田安系の間で系統間交配が繰り返されました。

その結果、中土井系であろうが、熊波系や城崎系であろうが、同じ祖先を持つようになってしまいました。これが遺伝的単一化で、但馬牛の遺伝的多様化を行うのに、中土井、熊波、城崎といった父系分類ではどうにもならない状況になっていたのです。

それでも、城崎系や熊波系、中土井系の中でも非主流の菊安土井系の種雄牛を交配すると、産子の近交係数係数の上昇は鈍化しました。こうしたことから「肉用牛振興ビジョン」では、当面、希少系統の維持に努め、父系分類に代わる新たな分類方法を検討することにしました。

そして 2004 年、北部農技と神戸大学はジーンドロッピング（以下「GD」）という手法を開発し、以後但馬牛はこの手法で分類することになりました。

GD は、血統を可能な限り遡って、行き着いた牛を始祖牛とし、現存する但馬牛に影響力の強い始祖牛 100 頭を選んで、その遺伝子をどの程度受け継いでいるかによって分類する方法です。

この方法だと、系統間交配で家系が入り交じっていても分類することができ、G 1 から G 8 の 8 つのグループに分けることができます。

そして種雄牛や繁殖雌牛など後代を残す牛は同じグループ内で交配して造ることにしました。そうすることによって、各グループ間の血縁を遠くし、但馬牛の集団を切り分けようとする狙いです。

しかしそれでもまだ課題は残りました。いかに遺伝的多様性が重要だとしても、現在の肉用牛経営に求められる経済的能力がなければ、牛は残りません。

城崎郡に起源する祖先を持つ G 1 ～ G 4 グループは、「北宮波」を中心に後代を造ることになりました。

「北宮波」は「谷福土井」の息子ですが、母方祖父は「茅菊波」、曾祖父は「照菊波」で、熊波系の影響が強いと思って名前に“波”をつけました。しかし、祖先に城崎系の「城富」、「奥秀」、「浦岡」がいるので、GD では G 1 に分類されました。

「北宮波」により、発育・増体性や脂肪交雑に優れ、産肉能力の高い G 1 種雄牛ができるようになりました。しかし主流である中土井系との血縁を遠ざける効果は強くありません。

一方、熊波系を主体とする G 8 は「茂金波」を中心に後代を造ることになりました。「茂金波」は 1957 年生まれの古い世代の牛です。このため血縁を遠ざける効果はありますが、産子の能力は現在の肉用牛に求められる水準からすると低く、利用が進みませんでした。

そのため、中土井系の力を借りて G 8 の能力アップを図ろうと、2010 年に「丸明波」を造りました。この牛は G 8 グループに属しますが、父は「鶴丸土井」、母も「やまだ→あさき→ふく子→ふくよ→みつふく」と続く超主流母系の出身です。能力的には期待できるものの、血縁を遠ざける効果はあまり見込めません。

このように遺伝的多様性を図るにしても、経済的能力を伴う必要があり、効果が見えるまでには、まだ数世代、こうした取り組みを続ける必要があります。

このように兵庫県では、1998 から 99 年にかけて行われた議論を基に今日まで^{たじまうし}但馬牛にこだわり、県内一貫生産により^{たじまぎゆう}但馬牛、神戸ビーフを生産してきました。そして 2014 年以降は枝肉、子牛価格とも史上か

つてないまでの高値となり、但馬牛の優位性を発揮できるようになってきました。

しかしこの間、高い能力の種雄牛に恵まれ、国内の景気も好調に推移し、神戸ビーフの輸出が始まり、^{たじま}但馬^{ぎゅう}牛、神戸ビーフがG I登録されるなど、但馬牛にとっては追い風が吹いていたように思われます。バブル崩壊、平成不況をきっかけに閉鎖育種存続の危機を乗り越えた但馬牛の真価が試されるのはこれからなのかも知れません。

2016年1月以来、但馬牛の歴史を書いてきましたが、とうとう現在まで来てしまいました。但馬牛はこれからも長く歴史を刻んでいきますが、『“但馬牛”今昔物語』はこれにて一巻の終わりとします。長い間ご愛読ありがとうございました。

但馬牛博物館は4月21日にリニューアルオープンしました。但馬牛と馴染みがない一般の方にも但馬牛、神戸ビーフの歴史や現在の取り組みを理解していただけるよう判りやすい展示にしたつもりです。

また、農家や食肉事業者等但馬牛に関わる方にも参考になる展示や情報発信により一層充実させたいと思いますので、是非ご来館の上、ご意見をいただきたいと思います。

ご来館お待ちしております。